色々な時計の話

叫び人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
色々な時計の話

【Ｎコード】
Ｎ９７９１Ｓ

【作者名】
叫び人

【あらすじ】
主役は時計で、時計はあなた。というお話。

まるでホールのような円柱状のホールの壁に、中世のホテルのような扉が十以上ある。ホールのちょうど中心には、懐かしい歌にあるような、大きなのっぽの古時計がカチ、コチ、と静かなホールに秒針を響き渡らせていた。

ある男は、そのホールのやや端にいた。男は足元を見て、大きなのっぽの古時計の周りの床に、部屋の鍵が規則正しく円状に、丁度それぞれ部屋を指すような形で置いてあるのを見つける。その中から、『時計の部屋』という言葉と自分の名前が、まるでホテルの鍵の付属品みたいな細長いプラスチックに書かれていた。男はそれを拾うと、まっすぐ鍵の指示していた扉に向かい、不意に何か思案を巡らせて、扉のななめ上の、でっぱりに置いてあった燭台を手に取った。ろうそくの火が、ゆらりと揺れる。扉には、鍵と同じ『時計の部屋』という文字が、男の名前と共に刻まれていた。

木製の扉の部屋の向こう側は、よくわからない空間だった。天井はなく、あるのは明るいのか暗いのかわからない空で、明るい空では笑ったお日様がじわじわその表情を変えて行き、隣の暗い空ではぷっくりとふくれたお月様は慌ててダイエットしたかと思うとまたおもちやらお団子を食べてふくれていった。その二つの空の境目の真下では、足元に草原が広がり十二色のクレヨンが順繰りに大きなキャンバスを塗り替えていく。普通の部屋のような一角にあるごちそうの載ったテーブルは笑顔とともに瞬く間に消えて、暖炉の前の編み物は一向に出来上がらない。宙に浮いたアルバムは逆さにめくられ遡り、卒業文集に描かれた将来の夢が色もなく飛び跳ねていた。

バラバラだな、と燭台を持った男は、規則性なんてクソくらえという現状を苦笑った。無秩序なこの部屋を一歩出れば、大きなのっぽの古時計が、速まることも遅くなることも、止まることも留まることも、進むことも戻ることもなく、時を刻んでいるというのに。

けれど、らしいとも思う。刻むだけの時計では、きっと生きているとは言えなかっただろう。男の時を表し続けた時計を見つめ、自分はこんな時を歩んできたのだなと、男はしみじみ思った。

男は扉をほんの少し開けると、扉の隙間から手を伸ばし燭台を元の位置に戻した。そして今度は明かりを持たず、再び扉を閉める。カチコチカチコチカチコチカチコチ。カチ。すぐに次の音にまぎれてしまうその音とともに、男の入った部屋のろうそくが尽き、燭台は二度と灯ることがなかった。そしてその瞬間も、大きなのっぽの古時計は刻む。

カチコチカチコチカチコチカチコチ。
カチコチカチコチカチコチカチコチ。

男は二度と出てこなかった。

（後書き）

ネタばらしするとこんな感じ。
お日様　↓　一日（日時計）
お月様　↓　一か月（月時計）
クレヨン　↓　一年（年時計）
ごちそう・暖炉　↓　アインシュタインの相対性理論の例え話より
アルバム　↓　過去の回想
卒業文集　↓　未来の空想
ろうそく　↓　男の残り時間（寿命）
大きなのっぽの古時計　↓　普通の時計

ここまで読んでくださってありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9791s/

色々な時計の話

2011年10月8日16時49分発行